

学校園を指導・支援する指導主事の役割モデル

- 「ICTを用いて創造し、表現する学び」に取り組む学校との関わりを通して-

学籍番号 229112
氏名 谷口 理志
主指導教員 寺嶋 浩介
副指導教員 陸奥田 維彦

1. 背景

1.1 A市教育委員会の課題

令和4～5年度にA市教育委員会に勤務している指導主事は55名である。配属先は学校教育部が大半を占めており、学校教育部において指導主事が配属されているのは、学校教育推進室、人権教育室、教職員課、教育センターである。

どの所属においても指導主事として教育委員会に勤務する年数は、大半が2～4年であり、早いサイクルで入れ替わるため、指導主事の業務、特に学校園への指導・支援に関する実践知・経験知が継承されにくいことが課題として挙げられる。

1.2 実践課題研究の目的

本実践課題研究では、「ICTを活用した教育の推進に関する基本方針 -新しいICT環境で進めるA市の教育- (令和2年11月A市教育委員会)」において示された「ICTを用いて創造し、表現する学び」に取り組む学校への関わりに関する報告者が担った業務を通して、学校園を指導・支援する指導主事の役割をより具体的に考察し、「学校園を指導・支援する指導主事の役割モデル」を作成することを目的とする。

2. 「ICTを用いて創造し、表現する学び」の構築と普及 (実践課題研究1年目)

報告者の実習先であるA市教育センターにおける令和4年度の調査・研究テーマは、「『ICTを用いて創造し、表現する学び』の構築と普及」であった。

報告者は、「ICTを用いて創造し、表現する学び」の定義について、基本学校実習にて先行研究などを参考にし、教育センターに所属する指導主事に声をかけ、意見を出し合う場を設定し、対話した。その結果、A市の「ICTを用いて創造し、表現する学び」の定義は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現し、よりよく課題を解決する学習を通して、アイデアをかたちにする力を育む学び」となった。そして、その定義に基づいた実践を行う研究員をサポートし、市全体へ調査・研究結果を発信した。

令和5年度における「ICTを用いて創造し、表現する学び」に関する調査・研究では研究校を指定することになり、報告者は研究指定校の1つであるM小学校を支援することとなった。その際、報告者が受講していた授業「学校に対するコンサルテーション」で紹介された「学

校研究の発展に資する指導主事の役割モデル（島田ら，2016）」を参考にした。

報告者はM小学校へのコンサルテーションを行う中、「学校研究の発展に資する指導主事の役割モデル（島田ら，2016）」にはない、所属内の課題に対して、所属内の指導主事や、他課室の指導主事と連携する視点を加えた新たな指導主事の役割モデルを作成することにした。

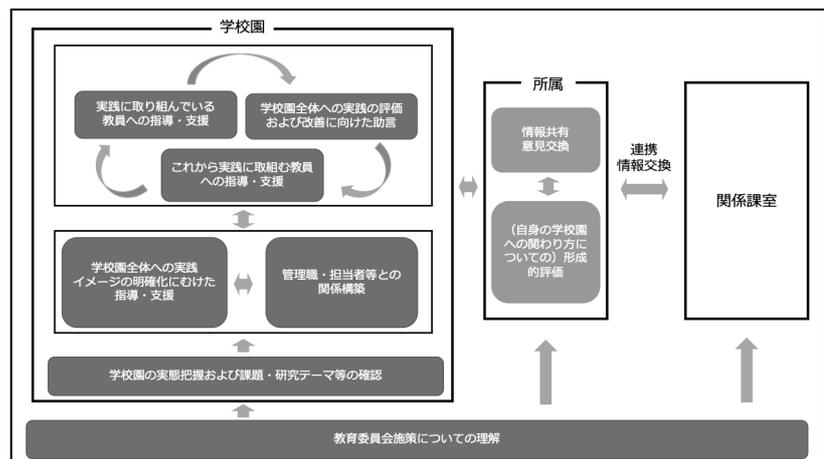
3. 指導主事の役割についての考察 (実践課題研究2年目)

令和5年度に報告者が行ったM小学校へのコンサルテーションを通して、指導主事の役割を省察した。「学校研究の発展に資する指導主事の役割モデル（島田ら，2016）」を参考に、報告者がM小学校に関わった際の内容・成果・役割について記録したものを基に指導主事としての役割を図示し、指導主事の役割モデル暫定版を作成した。

役割モデル暫定版をよりよいものに改良するために、A市教育委員会指導主事と対話し、「学校園を指導・支援する指導主事の役割モデル」（図1）を作成した。

役割モデルには、指導主事による学校園へのアプローチに関する要素だけでなく、自身が所属する組織内や関係課室（自身の所属とは別の教育委員会内の組織）との連携に関する要素が盛り込まれた。

役割モデルの妥当性や活用可能性を検証するため、A市教育委員会指導主事にヒアリングとアンケート調査を行い、中核市に勤務する指導主事に対してアンケート調査を行った。その結果、A市教育委員会において、「学校園を指導・支援する指導主事の役割モデル」を業務で活用する見通しが立った。



(図1) 「学校園を指導・支援する指導主事の役割モデル」

4. まとめ

実習先教育委員会としての成果は、「学校園を指導・支援する指導主事の役割モデル」を作成できたことと、活用していく見通しを立てられたことである。

報告者自身にとっての成果は、A市の指導主事育成指標の項目の1つである「企画調整力」が向上したことである。実習先のA市教育センター指導主事をはじめ、関係課室の指導主事と協働して本実践課題研究を進めることができた。

実習先教育委員会の課題として、配属先によって、積極的に学校園を指導・支援したいが、その機会が少ない指導主事がいることが挙げられる。その機会を設けるように教育委員会に働きかけたい。そして、「学校園を指導・支援する指導主事の役割モデル」の活用を推進し、関係課室の指導主事と協働しながら業務を進めることをより一層推進していきたい。